



Top Downloaded Article 2021

学術誌：Clinical Anatomy

論文タイトル：Dynamic changes of the joint capsule in relation to the zona orbicularis: An anatomical study with possible implications for hip stability mechanism.

著者：Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Akita K.

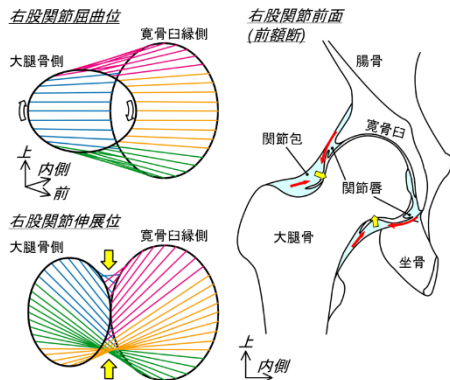
受賞日：2023年3月31日

Weblink：<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/ca.23767>

MINCL
運動療法エビデンス
研究チーム
堤 真大 先生

本受賞は、2021年1月から12月の間に「Clinical Anatomy」誌で公開された論文の中で、オンライン公開後の12か月の間で、最も多くダウンロードされた論文の上位に含まれたものに認定されるものです。

従来、関節の支持機構を考える上では“靭帯”が重要視されてきましたが、多くの関節において靭帯様の線維束は認められず、“靭帯”は“関節包”の一部にすぎないことがわかってきています。本論文は、股関節包内面に存在する輪状の線維束とされてきた輪帯に着目した研究です。一般には、単なる膜構造として認識されてきた関節包ですが、股関節の運動に伴って関節内腔へ突出する動態をみせ、この関節包の内腔への突出自体がいわゆる輪帯に相当することが明らかになりました。本研究を基に、“靭帯”ありきの股関節支持機構が見直され、外科手術・運動療法の発展につながることを期待しています。



関節運動に伴う関節包の内腔への突出 = 輪帯
(関節包は肢位によって安定性への寄与が変化)

Tsutsumi et al., Clin Anat 2021 Nov;34(8):1157-1164.



WILEY

Top Downloaded Article



Congratulations to:

Masahiro Tsutsumi

Whose paper was one of the most downloaded* during its first 12 months of publication in:

CLINICAL ANATOMY

Dynamic changes of the joint capsule in relation to the zona orbicularis: An anatomical study with possible implications for hip stability mechanism

*Among work published in an issue between 1 January 2021 – 31 December 2021.



若手研究奨励賞

学会名：第35回日本トレーニング科学学会大会. 東京. 2022.

テーマ：スポーツテクノロジーの介入による陸上長距離
パフォーマンス向上がもたらす形態的特徴の変化

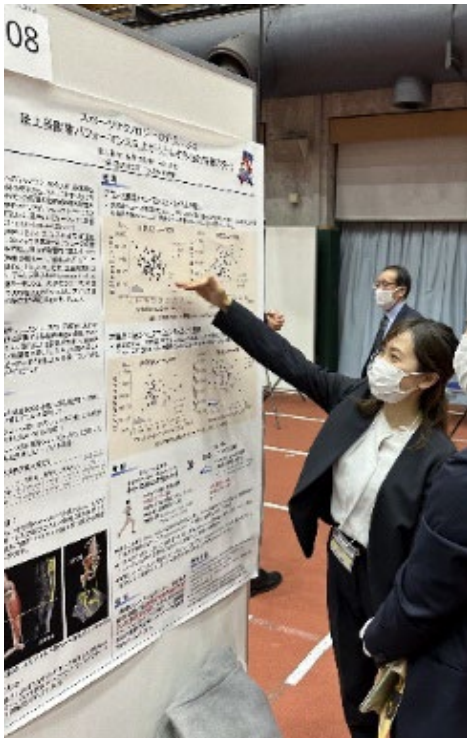
発表者：信江 彩加, 佐野 加奈絵, 石川 昌紀.

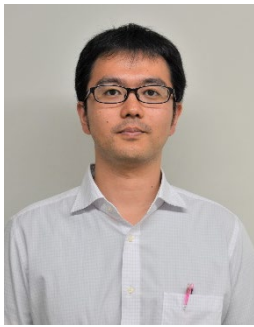
受賞日：2022年12月4日

鍼灸学科
信江 彩加 先生

近年、陸上競技の長距離種目において、従来の薄底・軽量シューズに代わって、前への推進力が得やすくなる構造をしている厚底カーボンシューズが出現したことにより、記録の向上が見られる一方で、走り方や怪我の発生箇所も変化していることが分かってきています。

私たちの研究では、長距離走能力と関連のある下肢の筋腱の形態的特徴が、このシューズテクノロジーの進化に伴って変化している可能性を明らかにしました。つまり、新しいシューズの登場により、走行中の筋腱の負担部位が変わってきており、これに伴いトレーニング方法やケアのアプローチを見直す必要性と、その上で考慮すべき要素を示しました。





作業療法学科
東 泰弘 先生

第 56 回日本作業療法学会 優秀演題賞

学会名：第 56 回日本作業療法学会. 京都. 2022.

テーマ：車いすを使用している患者の新たなトイレ動作尺度の Rasch 分析を使用した構造的妥当性の検討

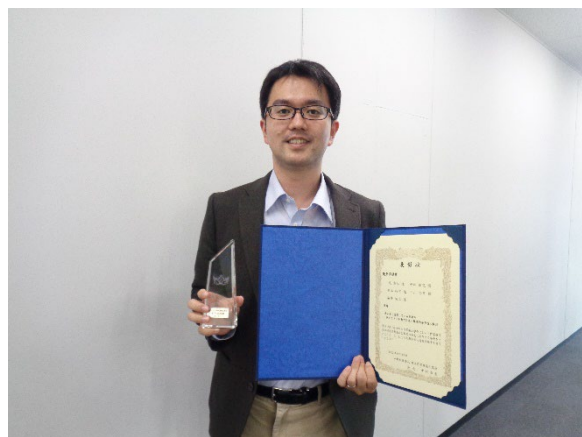
発表者：東 泰弘, 兼田 敏克, 堀本 拓究, 平山 公章, 染井 佑太.

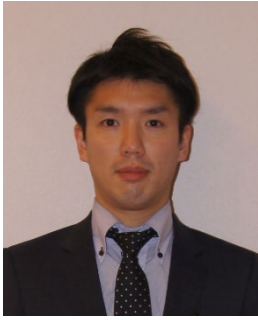
受賞日：2022 年 9 月 18 日

公表：http://ot56.umin.jp/item/excellent_presentation.pdf

トイレ動作の自立が困難である場合、Quality of Life、精神衛生および社会参加の低下を引き起こすことが報告されています。そこで、我々はトイレ動作を 22 の動作に分類し、6 段階でそれぞれの動作を評点するトイレ動作尺度 (Toileting Behavior Evaluation : TBE) を作成しました。今回の発表ではトイレ動作 22 動作のうち、どの動作が最も難しく、どの動作が最も簡単なのかを Rasch 分析という手法を用いて検討しました。その結果、「下衣の上げ下げ」が最も難しく、「便座で座位保持」が最も簡単であることがわかりました。この結果を用いることで目標設定や段階付けなどが行いやすくなると考えられます。

項目	項目難易度	SE	Infit	
			MnSq	Zstd
下衣を上げる	0.86	0.11	0.82	-1.4
下衣を下げる	0.74	0.11	0.84	-1.3
方向転換 (便座⇒車いす)	0.41	0.1	0.54	-4.4
方向転換 (車いす⇒便座)	0.34	0.1	0.55	-4.3
適切な位置に停車	0.21	0.1	1.59	4.05
車椅子から立ち上がり	0.19	0.1	0.65	-3.2
ドアを閉める	0.17	0.1	1.3	2.21
車椅子に座る	0.14	0.1	0.72	-2.4
ドアを開けて出る	0.08	0.1	1.62	4.18
便座から立ち上がる	0.07	0.1	0.76	-2
便座に座る	-0.01	0.1	0.84	-1.3
ドアを開けて入る	-0.06	0.1	1.39	2.8
ブレーキをかける	-0.13	0.1	1.01	0.11
立位保持する (排泄前)	-0.16	0.1	0.79	-1.8
立位保持する (排泄後)	-0.18	0.1	0.81	-1.6
ペーパーを取って後始末をする	-0.45	0.11	1.63	4.11
ブレーキを外す	-0.49	0.11	1	0.08
便座で座位保持	-1.74	0.12	1.01	0.11





MINCL
運動療法エビデンス
研究チーム
河西 謙吾 研究員

最優秀口演演題賞

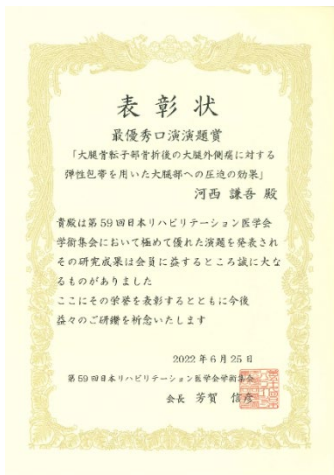
学会名：第59回日本リハビリテーション医学会学術集会. 横浜.

テーマ：大腿骨転子部骨折後の大腿骨外側痛に対する弾性包帯を用いた大腿部への圧迫の効果

発表者：河西謙吾, 福田大輔, 丹羽裕之, 奥野泰介, 宮下敏紀, 北川崇, 工藤慎太郎.

受賞日：2022年6月25日

本発表は高齢者の3大骨折とも言われる太ももの付け根の骨折（大腿転子部骨折）を対象としました。発生頻度も高く、骨折後は歩行時に痛みを訴える患者様が多く、難渋する疾患の一つです。我々は、大腿骨転子部骨折後の大腿部（皮下組織）が腫れ、滑走性が低下することで痛みが生じることを明らかにしてきました。その成果を基に簡便かつ非侵襲的な弾性包帯を用いて大腿部を圧迫することで滑走性や痛み、そして歩行が改善することを示しました。この発表は本学で修士・博士課程で続けてきた研究の集大成であり、リハビリテーション医学会というこの業界での一番大きな学会で賞を頂けたことを誇りに、目の前の患者様に還元できる研究を続けていきたいと考えております。



弾性包帯の装着法

